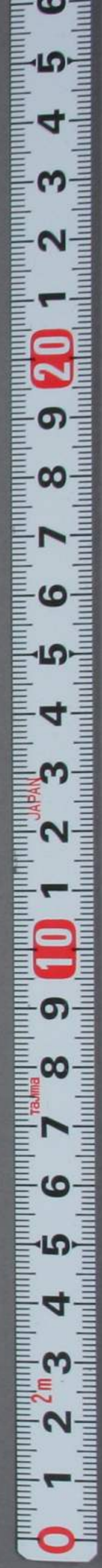




茶乃書

二十七

多  
674  
2017



茶道隨聞記





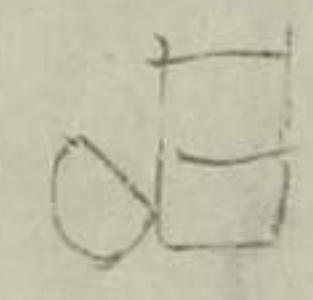
うき川に似たるうきの上、考し徳の財、右のまじりたるものより、まじりたるを分けたり、  
 之を——左のうきの上、まじりたるを分けたり、まじりたるを分けたり

真のまじり

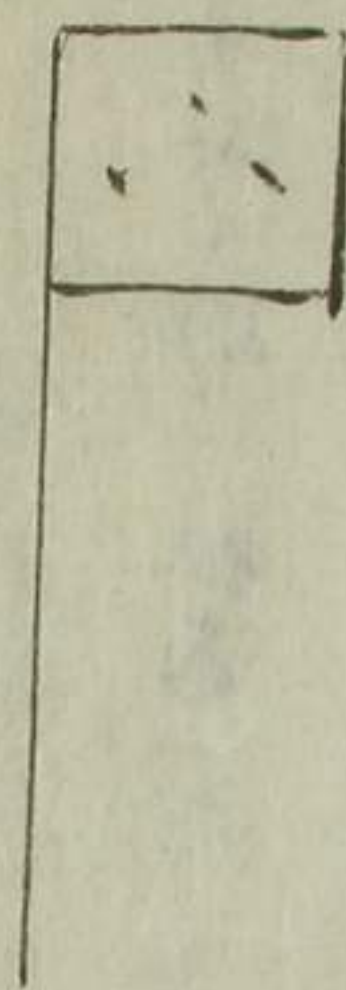


如此のまじり、あつたまじりたるものより、まじりたるを分けたり、まじりたるを分けたり

不向き 常ノ水指ノ如ク蓋ヲ服（置テ）不吉

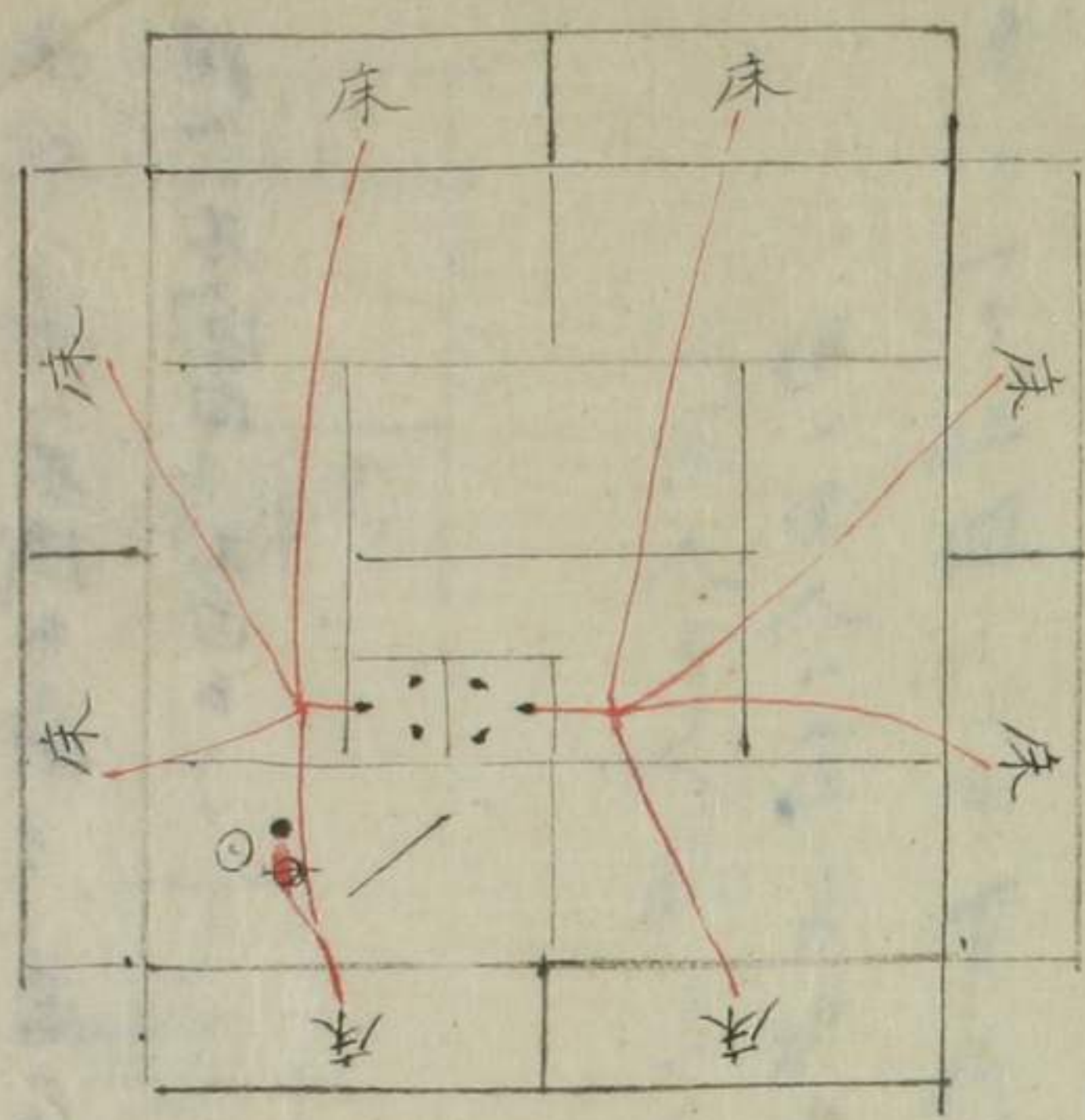


陽炉



客常如クスミラ壁ニ居テノキニル  
 宗匠、炭ナシナラハ、釜ヲトメテニル  
 之者（之）釜ヲトメテ炭ヲニルハ  
 但流クナリ

又云、千家ニテモ、釜ヲトメテ見テ不吉ヨシ



宗什子云、徳のすし

如此のすし

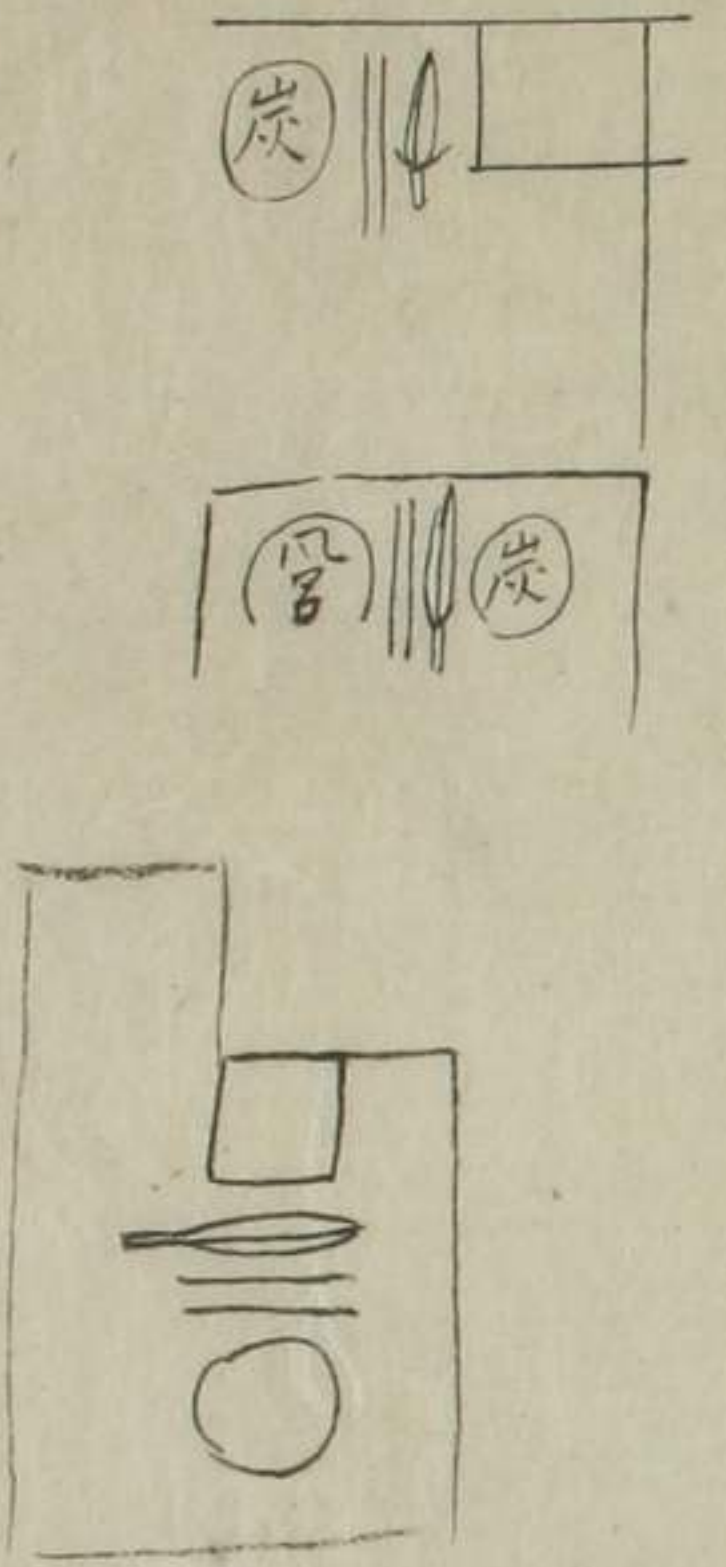
席櫃（しゐぐら）ハ、一戸ガ一入、好むカニ入、可也

席櫃ハ、好む

壁の行ハ、席櫃ヲ、ニ入、可也

一 不白云竹ノ蓋置ハ利休貴人招待の時高僧子ノ用トヨリ初後臺  
 子ノ升ノ蓋置ヲ禁ルハ不取合故ナリ然レモ貴人ハ不白云ノ爐、蓋置ヲ  
 道安、贈風号蓋置ツサ巻、贈ラレタリト如心斎云リ  
 一 出茶ノ湯ハ不残手前ヨリ道具ヲ持来スルカ本意ナリ多ク先ノ道具  
 用ルニ不白高ト不白云リ

一 小ヤノ蓋置一閑人ノ蓋置ニ柄抄アリハ手トアツカ  
 手トアツカト社回ト云々其修口常ノ柄抄  
 但一閑人ハ笠ノ方炉風炉ノ方ノ人形自少ノ向ナリ  
 云々閑人ノ人形ノ人ノ方ノ柄抄柄抄ト云々



炭ノ方  
 炉風呂ノ方格ナリ火ノ方相ノ世トヨリノ柄抄  
 相抄ノ方格ナリ炭斗ノ方ナリ風呂ノ方ハ火ノ  
 風呂ノ方ナリ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. There are some faint, illegible markings at the top of the page, possibly bleed-through from the reverse side.

6

